

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目			聴講	否
授業科目名	保健医療情報組織学		科目履修	否	単位互換
科目番号	S 0 1 0 0 1	クラス番号	C 1（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	看護：必修／放射：選択		
開講時期	3年次 前期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	宮崎有紀子	そ の 他			
担当教員	宮崎有紀子 ほか1名				
授業の概要	集団を対象とした健康状態に関わる情報の収集・組織化の方法を統計的知識・技術を含めて学習する。また、これらの知識・技術を活用して演習を行い、群馬県民及びわが国の保健医療に対するニーズを査定し、保健医療システムの現状及び課題を把握する方法を学習する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：集団における健康状態の発生分布を把握し、その要因を追求する方法を理解するために、統計学の主要概念、基礎理論、解析方法について学ぶ。群馬県民及びわが国の保健医療に対する統計情報と活用方法について学ぶ。 目標：1. 統計学の主要概念を理解する。 2. 統計学の基礎理論に基づき、解析方法を理解する。 3. 集団における健康状態を査定するために、保健医療に関する統計情報を的確に読み取る。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	看護と統計・統計情報の活用	講義	授業時に課題を提示する	宮崎
	2	集団の健康状態の把握①（人口静態・人口動態）			
	3	集団の健康状態の把握②（各種保健統計調査）			
	4	看護研究と統計・データの性質			
	5	代表値とばらつき①（平均値、中央値等）			
	6	代表値とばらつき②（分散、標準偏差）			
	7	2つの項目間の関係			
	8	推定と検定			
	9	さまざまな検定手法			
	10	質問紙調査の概要			
	11	演習(1) 質問紙の作成／基本集計の方法	演習		宮崎 ほか1名
	12	演習(2) 基本集計の方法／質問紙の作成			
	13	演習(3) データの処理			
	14	演習(4) データの分析			
15	演習(5) まとめ				
評価方法	筆記試験 50%、課題レポート 50%				
教科書	厚生統計協会編：国民衛生の動向，厚生統計協会，平成27年度 高木廣文：ナースのための統計学 第2版，医学書院，2009 その他、講義にて別途資料を配布する				
参考書 参考文献等	中野正孝：新版 看護系の統計調査入門，真興交易（株）医書出版部，2003 浅野嘉延：看護学生のための疫学・保健統計第2版，南山堂，2014				
備考	授業時に次回の課題が提示された場合は、事前に調べて授業に参加すること				

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目				聴講	否	
授業科目名	保健医療チーム連携論Ⅰ			科目履修	否	単位互換	否
科目番号	S01002		クラス番号	C1（学部合同）			
授業形式	演習		必修選択区分	必修			
開講時期	4年次 前期セメスター		単 位	1単位 30時間			
科目責任者	上原真澄		そ の 他				
担当教員	松田安弘（看護学部責任者）、中西陽子、清水裕子、大澤真奈美、飯田苗恵、岩波浩美、益子直紀、廣瀬規代美、狩野太郎、高橋裕子 上原真澄（診療放射線学部責任者）、佐々木浩二、小倉明夫 猿木信裕客員教授（群馬県衛生環境研究所所長）						
授業の概要	保健医療チームにおける多様な職種の役割を把握し、人々の健康の維持・向上を目指し協働する意義と方法を学習する。災害時、国際感染症発生時、国際紛争時など様々な状況下における保健医療チームの役割と連携の実践を学習し、関連専門職者の専門性を尊重し、効果的に協働するための基本的態度を理解する。						
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：対象の健康問題の解決・回避に向けて医療従事者が協同する意義と方法を学習する。 目標：1. 保健医療チームにおける多様な職種の役割を把握する。 2. 災害時、感染症発生など、さまざまな状況下における保健医療チームの役割と連携の実践を理解する。 3. 保健医療チームの各人が関連専門職者の専門性を尊重し、効果的に協働するための基本的な態度を理解する。 4. 保健医療チームの連携により人々の健康の維持向上を目指し、協働する意義と課題を見出す。（演習）						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業形態	事前・事後学習（学習課題）		担当
	1	・保健医療チームの定義・論理および歴史と現状 ・保健医療チームの4つの要素と関係		講義	・毎回、講義課題を提示		上原
	2	・在宅ケアにおける多職種連携		講義			飯田
	3	・医療機関における職員としてのチーム医療連携の考え方（仮題）		講義			猿木
	4	・医療安全管理のための取り組みと保健医療チーム連携 ・医療事故防止に向けた保健医療チーム連携の実践		講義			清水
	5	・国際感染症発生対応における保健医療チーム連携		講義			大澤真
	6	・緩和ケアにおける保健医療チーム連携		講義			中西
	7	・MRI 検査における保健医療チーム連携		講義			小倉明
	8	・放射線治療における保健医療チーム連携		講義			佐々木
	9	学内演習（1）：オリエンテーション		演習	・課題テーマ決定と情報収集 ・課題テーマ(10)の情報収集と要約 ・レポート作成	上原	
	10	学内演習（2）：保健医療チーム連携の実践		演習		佐々木	
	11	学内演習（3）：保健医療チーム連携の実践		演習		小倉明	
	12	学内演習（4）：保健医療チーム連携の実践		演習		診療放射線学部教員（未定）	
	13	学内演習（5）：保健医療チーム連携の実践		演習		松田(高橋)	
	14	学内演習（6）：保健医療チーム連携の実践		演習		岩波	
	15	学内演習（7）：保健医療チーム連携の実践		演習		廣瀬 狩野 清水 益子	
	・15回のうち、1回から8回までオムニバス方式による講義を行う。 ・9回から15回は講義内容に沿った保健医療チーム連携の10課題（担当：上原、佐々木、小倉明、診療放射線学部教員（未定）、松田（高橋）、岩波、廣瀬、狩野、清水、益子）について演習（各演習室）を行う。						
評価方法	出席状況20%、演習評価基準の達成度を80%で評価する。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書 参考文献等	指定なし						
備考	特になし						

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目				聴講	否	
授業科目名	保健医療チーム連携論Ⅱ（実習）			科目履修	否	単位互換	否
科目番号	S01003			クラス番号	C1（学部合同）		
授業形式	実習			必修選択区分	必修		
開講時期	4年次 前期セメスター			単 位	2単位 90時間		
科目責任者	上原真澄			そ の 他			
担当教員	狩野太郎（看護学部責任者）、看護技術学・生涯発達看護学・地域健康看護学・機能看護学准教授・講師、上原真澄（診療放射線学部責任者）、放射線画像学・放射線治療学・放射線管理学准教授・講師・助手						
授業の概要	関心のある専門領域を選択し、実践環境に身を置きながら対象となる個人・集団の健康上の問題解決・回避に向けた他職種との連携・協働の実体を体験する。また、学習した成果を統合し、専門性の異なる職種が医療チームとしてより効果的な連携を実現するための課題を理解する。学生5～6名に対し、専任教員1名を配置し、授業前半は、テーマに沿った演習、後半は、演習内容を検証するための実習とする。						
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：保健医療チームを構成する多様な職種・機能を調整する意義と方法を学習する。 目標：1. 実習前学内演習を通し、テーマへの理解を深め、参加観察実習に向けたグループの準備状態を整える。 2. 参加観察実習を通し、保健医療チーム連携の実際を理解する。 3. 実習後学内演習を通し、個人・集団の健康上の問題解決・回避に向けた、より効果的な保健医療チーム連携を実現するための課題やその多様性を理解する。 4. 個人・集団の健康上の問題解決・回避に向けて、より効果的な保健医療チーム連携を実現するために学習を継続する必要性を認める。						
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態	事前・事後学習 （学習課題）	担当
	1	学内演習①：全体オリエンテーション 実習グループに分かれて演習			演習	・チーム連携テーマの設定 ・テーマの理解、観察実習の準備	上原 狩野 各担当 教員
	2	学内演習②			演習		
	3	学内演習③			演習		
	4	臨地実習①：実習フィールドにおける参加観察			実習	・チーム連携の 実際を理解	
	5	臨地実習②：実習フィールドにおける参加観察			実習		
	6	臨地実習③：実習フィールドにおける参加観察			実習		
	7	臨地実習④：実習フィールドにおける参加観察			実習		
	8	学内演習④：まとめ・発表準備			演習	・チーム連携 実現のため の課題整理 ・自己評価	
	9	学内演習⑤：Ⅰ・Ⅱ限：グループ発表 Ⅲ限～：レポート課題作成			演習		
【期間】平成28年7月19日（火）～7月29日（金）（予定） 【場所】前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院、群馬中央総合病院、前橋協立病院、済生会前橋病院、県立心臓血管センター、県立小児医療センター、県立がんセンター、群馬大学重粒子線医学研究センター、群馬県保健予防課 など 【教員】学生5～6名で1組のグループを形成し、教員1名～2名が担当する 【内容・方法】提示した専門領域を参考にグループを形成し、グループごとに保健医療におけるチーム連携のテーマを設定。実習前学内演習3日間、参加観察実習4日間、実習後学内演習2日間。統合した学習成果は資料を用いて発表							
評価方法	行動目標の達成度100%（事前・事後学習票60%、実習状況約20%、統合レポート20%）						
教科書	特になし						
参考書 参考文献等	各グループごとに資料等を配布する。						
備 考	5月初旬オリエンテーション予定、詳細は実習要項参照 実習日程は実習先などの都合により担当教員の判断で変更する場合がある 実習期間中に就職試験が予定されている場合は、実習前に届け出ること						

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目				聴講	可	
授業科目名	保健医療システム開発論			科目履修	可	単位互換	可
科目番号	S O 1 0 0 4			クラス番号	C 1 (学部合同)		
授業形式	講義			必修選択区分	保健師・看護師：選択 放射：必修		
開講時期	4年次 後期セメスター（平成 27 年度以降入学生については3年次後期セメスター）			単 位	2単位 30時間		
科目責任者	下瀬川正幸			そ の 他			
担当教員	下瀬川正幸、堀謙太、巴山玉蓮、清水裕子、平成 28 年度就任予定教員						
授業の概要	保健医療システムの変遷と現状ならびに現在、開発されている最先端の保健医療システムの実践を学習する。また、モバイル医療や遠隔医療などの地域における保健医療ネットワークの構築や、資源の育成・活用方法の実践など新たな保健医療システムの開発に必要な基礎的知識を学習し、人々の健康問題の解決に向け保健医療システムを開発する意義を理解する。						
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：最先端の技術を開発・活用し、人々の健康問題解決に向け保健医療システムを開発する目的と意義を理解する。 目標：１．保健医療システムの変遷と現状を理解する。 ２．保健医療システムが有効に機能するためにネットワークが重要であることを理解する。 ３．最先端の保健医療システムの実践を理解する。 ４．人々の健康問題の解決に向け、保健医療システムを開発する意義を見出す。						
授業の内容と方法	回	授業内容			授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	保健医療システムの変遷			講義	毎回、講義終了時に次回の学習課題あるいは授業概要を提示するので事前学習をすること。授業の配布資料等を基に事後学習をすること。各担当教員の授業最終日に課題レポートあるいは筆記試験を実施する。 ・ 3 回目：課題レポート ・ 8 回目：筆記試験 ・ 12 回目：筆記試験 ・ 14 回目：筆記試験	巴山 清水
	2	現代の保健医療システム					
	3	保健医療システムを機能させるためのネットワーク					
	4	保健医療システムの仮想化とクラウド活用 オンプレミスからプライベートクラウドへ					平成 28 年度就任予定教員
	5	地域医療情報連携ネットワークとそのシステム					
	6	地域医療情報連携における情報連携基盤（１） 施設間情報連携 XDS、保健医療福祉分野公開鍵基盤 HPKI					
	7	地域医療情報連携における情報連携基盤（２） 医療画像情報連携 PDI、IRWF					
	8	保健医療における医療情報の交換と共有 標準化ストレージ SS-MIX					堀
	9	保健医療システムと情報通信システム					
	10	保健医療情報システムの実践（１） ―遠隔医療システム―					
	11	保健医療情報システムの実践（２） ―モバイル医療システム―					
	12	保健医療システムの中の情報通信システムの役割					下瀬川
	13	医療情報システムの導入 ―組織と工程―					
	14	医療情報の分析と臨床研究、そして E B M					
	15	授業のまとめ			演習	1 回から 14 回までの講義を復習すること。	下瀬川 星野 堀 巴山 清水
評価方法	筆記試験及び課題レポート（80%）、出席率（20%）						
教科書	指定なし						
参考書 参考文献等	日本医療情報学会編：新版 医療情報 医療情報システム編（第2版），2013，篠原出版新社						
備考	特になし						

科目区分	専門教育科目 専門科目 保健医療専門職共通専門科目			聴講	可	
授業科目名	保健医療国際連携論		科目履修	可	単位互換	可
科目番号	S 0 1 0 0 5		クラス番号	C 1 (学部合同)		
授業形式	講義		必修選択区分	保：必修 看・放：選択		
開講時期	3年次 前期セメスター		単 位	2単位 30時間		
科目責任者	高井ゆかり		そ の 他			
担当教員	高井ゆかり、小倉敏裕、山崎達枝、竹村範江、牧野孝俊					
授業の概要	この授業においては、国際的に活躍するわが国の保健医療専門職の活動の実際や諸外国における保健医療チームの活動の特徴や連携の実際を学習する。また、これらの学習を通し、保健医療専門職として国際的に活動する意義を理解する。					
学科目的 学科目標	目的：人種・民族・年齢・性別の異なるあらゆる対象に対して、保健医療チームの一員として貢献する意義を明確にする。 目標：１．国際保健医療協力の歴史と現状を理解する。 ２．国際保健医療協力に関わる保健医療職者の活動の実際を理解する。 ３．国際保健医療協力の課題を検討する。					
内 容 と 方 法	回	授業内容		授業 形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	国際保健医療(1) －国際保健医療協力の意義と必要性 －国際保健医療協力の歴史的変遷		講義	事前：講義終了時に次の学習課題を提示する 事後：配布資料を基に各回の講義内容を復習する	高井 小倉
	2	国際保健医療(2) －国際保健医療を提供する機関 －国際保健医療における保健医療専門職の活動				小倉
	3	国際技術協力の意義と実際 －診療放射線技師としての技術協力				
	4	国際保健医療活動に必要な注意事項				牧野
	5	世界保健機関における看護職の活動の実際				
	6	国際保健医療に関連する領域 －在日外国人への支援				竹村
	7	国際保健医療に関連する領域 －経済開発・貧困				高井
	8	国際保健医療に関連する領域 －環境・教育・ジェンダー				
	9	国際保健医療活動の実際 －看護師としての活動				山崎
	10	国際保健医療活動の実際 －国際緊急援助（1）				
	11	国際保健医療活動の実際 －国際緊急援助（2）				高井 小倉
	12	国際保健医療協力の課題(1)：グループ形成 国際保健医療協力の課題(2)：テーマ決定と情報収集		演習	資料収集	
	13	国際保健医療協力の課題(3)：情報収集と要約			資料収集・要約	
	14	国際保健医療協力の課題(4)：発表準備			発表準備	
	15	国際保健医療協力の課題(5)：発表と質疑応答			レポート	
評価方法	レポート(100%)					
教科書	指定なし/講義にて別途資料配付					
参考書 参考文献等	日本国際保健医療学会編：国際保健医療学 第3版, 杏林書院, 2013. 小早川隆敏編著：国際保健医療協力入門－理論から実践へ 国際協力叢書, 国際協力出版会, 1998. 日本国際保健医療学会編：国際保健医療学 第2版, 杏林書院, 2005. 丸井英二, 森口育子編：国際保健・看護, 弘文堂, 2005. NPO 災害人道医療支援会（HuMA）災害看護研修委員会：グローバル災害看護マニュアルー災害現場における医療支援活動ー, 真興交易, 2007.					
備 考	9・10・11回目の講義は集中講義になる予定です。					